

特定非営利活動法人 ワネッツ

# 活 動 報 告 書

第 2 期

(2018年4月1日 ~ 2019年3月31日)

2019年6月24日

( 強制余白 )

## 1. 活動の目的

### 1-1. 決意

特定非営利活動法人ワネッツ（以下「ワネッツ」という。）は、以下の決意のもと 2017 年 4 月 6 日に設立しました。

私達は、嶺南地方を中心に、この地域の人口構成上の中核となる高齢者によって、イノベーション（従来のモデルを改革して社会的に意義のある新しい価値を創造し、社会に大きな変化をもたらす活動）を進めるために、特定非営利活動法人を設立する。

また、この法人が管理運営する「地域住民のための原子力緊急時援助隊（NEATR：ニーター）は、緊急時において不公平感のない中立的な組織として、行政のみならず自主防災組織などの住民自主活動も支援する。これは、この地域の災害の復元力（レジリエンス）の向上にも大きく寄与するものであると信ずる。

さらに私達は、この法人に組織管理手法（マネジメントシステム）を取り入れ、常に継続的改善、自己改革ができる組織をつくり、「原子力発電所がある地域は元気な地域」と呼ばれるようになることを目指し、この実現のため「終わりなき挑戦」をする覚悟である。

### 1-2. 目的

この決意のもと、法人の目的をワネッツの定款において以下のように設定しました。

特定非営利活動法人ワネッツは、地域住民、地方公共団体および原子力事業者等に対して、原子力緊急時における防護対策および災害応急対策ならびにこれらの準備に関する支援等を行い、地域の防災・減災力の向上に寄与することを目的とする。

### 1-3. 事業

この目的を達成するため、特定非営利活動促進法で定める災害救援活動および地域安全活動の領域で、以下の 5 つの非営利事業を実施することとしました

- (1) 地域住民のための原子力緊急時援助隊運営事業（以下、「NEATR 運営事業」という）
- (2) 地域住民のための原子力緊急時援助隊隊員等研修事業（以下、「NEATR 隊員等研修事業」という）
- (3) 緊急時ツール開発管理事業
- (4) 原子力緊急時知識普及事業
- (5) 関連付随事業

## 2. 活動の成果

### 2-1. 特定非営利活動事業における成果

ワネッツの定款に定める 5 つの事業に関して、以下の 9 件の個別事業を行い、それぞれの事業についてマネジメントサイクルを適用してアフターアクションレビュー（AAR）およびパフォーマンス評価等を行うとともに、これら事業の継続的な改善に資する

教訓を得ました。詳細を本報告書第3-1項に示します。

なお、個別事業の決算は、本報告書に付随する決算書に示します。

	個別事業	実施時期	参加者
(1)NEATR 運営事業	コマンドシステム演習	2018年8月~9月	内部 40人 外部 0人
(2)NEATR 隊員等研修事業	緊急時コミュニケーション研修事業	2018年11月	内部 23人 外部 13人
	KSA向上特別番組放映事業	2019年3月	内部 4人(51回) 外部 数人
(3)緊急時ツール開発管理事業	(該当なし)		
(4)原子力緊急時知識普及事業	敦賀市広域避難研修支援事業	2018年10月	内部 3人 外部 40人
	防災基礎研修支援事業	2018年6月~7月	内部 99人 外部約 150人
	エネ研研修講師派遣事業	2018年11月	内部 3人 外部 6人
	世代間交流事業(パスイェイワークショップ)	2018年3月	内部 11人(80回) 外部 7人
(5)関連付随事業	災害時活動団体支援事業	2108年7月~9月	内部 8人 外部 0人
	会員特典テキスト配布事業	2018年9月~11月	内部 31人 外部 0人

## 2-2. その他事業(収益事業)における成果

該当ありません

## 2-3. 運営における成果

ワネッツの運営は、定款に定める事業が成立し、かつ継続的な改善が可能となるよう、以下の活動を実施し、それぞれ、前第2-1項に示した成果に寄与させることができました。なお、第2期におきましては、(4)項の継続的な寄付収入については、アウトカム(成果指標)を設定して行った結果、これを達成しました。詳細を本報告書の第3-4項に示します。

- (1) 重要な規定の制改定および契約の締結
- (2) ワネッツの正会員および賛助会員獲得
- (3) NEATRの隊員獲得
- (4) 継続的な寄付収入
- (5) 補助金等の申請
- (6) コマンドシステムの導入、定着
- (7) ホームページの運営、ワネッツ会報およびNEATR機関紙の発行

### 3. 事業の実施に関する事項

#### 3-1 特定非営利活動に関する事業

前2-1項の個別事業は、目的を明確にした計画の作成、計画に基づく実施、アフターアクションレビュー（AAR）の実施、および見出した事実と得られた教訓による改善というマネジメントサイクルで実施しました。

これらの活動の要点となるものは、実施する目的であり、その目的に対してどれだけ到達したかを表すため、パフォーマンス評価を行いました。なお、「見出した事実と得られた教訓」については、アフターアクションレビュー（AAR）によるものとしました。

これらの詳細を添付資料「地域住民のための原子力緊急時援助隊（NEATR）2018年度活動報告書」に示します。

NPO法人等の社会活動の主な評価要素である社会的インパクトについて、様々な手法が提案されている状況にはありますが、ワネッツでは目標に対する到達度（パフォーマンス）という視点でまとめています。

#### 3-2 その他の事業（収益事業）

該当ありません。

#### 3-3 理事会および総会に関する事項

##### (1) 理事会

理事会はワネッツ発足以降、会計年度終了後の定期総会まで、都合3回開催し、総会に諮る議案等を審議しました。

実施日	出席	議題	採否
2018.4.7	9人中9人出席	・原子力安全技術センターとの協定等の締結について ・ワネッツシニアアドバイザーの締結について	全会一致で可決 全会一致で可決
2018.6.2	9人中9人出席	・第2会定期総会の開催について ・第2回定期総会議案について	全会一致で可決 全会一致で可決
2018.6.21	9人中9人出席	・理事長の互選について ・ワネッツシニアアドバイザー契約書の締結について	肥田氏を理事長に互選 全会一致で可決

##### (2) 役員会

ワネッツの役員会は、3-4(1)項で述べる役員会規定に基づき、会計年度終了後の定期総会まで都合7回開催し、主にNEATRの活動計画および活動結果の評価を行いました。

実施日	出席	議題	採否
2017第6回 2018.4.7	11人中11 人出席	・2018年度新規会員・隊員の募集について ・機関紙改善検討委員会の設置および報告について	全会一致で可決 全会一致で可決
2017第7回 2018.6.2	11人中11 人出席	(理事会の議案のみ)	
2018第1回 2018.6.20	11人中11 人出席	・NPO法人ワネッツ執行体制について	全会一致で可決
2018第2回 2018.8.2	11人中11 人出席	・緊急時活動団体の支援について ・2018年度コールインドリルの実施について ・2018年度コマンドシステム研修の実施について	全会一致で可決 全会一致で可決 全会一致で可決
2018第3回 2018.12.18	11人中11 人出席	・世代会交流(ワークショップ)事業の実施について ・若狭湾エネ研研修講師派遣事業の実施について ・敦賀市広域避難研修支援事業の実施について	賛成多数で可決 賛成多数で可決 賛成多数で可決
2018第4回 2019.2.18	11人中11 人出席	・世代間交流事業の実実施計画変更について ・NEATR第4回定期総会の実施について	賛成多数で可決 賛成多数で可決
2018第5回 2019.3.20	11人中11 人出席	・NEATR隊員等KSA向上事業の実施について ・福井県防災士会研修会講師派遣事業の実施について	賛成多数で可決 賛成多数で可決

### (3) 総会

ワネッツの通常総会は、定款に基づき、第2期(2018年度)のものとして2018年6月20日に、メール方式で行いました。総会成立を確認したのち、以下の3議案について可決しました。

- ・ NPO法人ワネッツ定款の変更(軽微)について
- ・ 2018年度活動方針について
- ・ 2018年度予算について
- ・ 役員の改選について

### (4) 監査

監査は、ワネッツの会計規則に基づく業務監査(個別事業の決算)を、2018年12月27日および2019年4月24日の2回実施し、それぞれ適正に処理されていたとの報告を受けました。

また、ワネッツ定款に基づく第2期決算の監査を2019年4月24日に実施し、適正に処理されていたとの報告を受けました。この監査結果については、ワネッツの第2期決算報告書中に掲載しました。

### 3-4 運営に関する事項

#### (1) 重要な規定の制改定および契約の締結

ワネッツの発足にあたり、まずはワネッツの運営を開始するにあたり、次表で示す内部統制基準を役員会で決定しました。なお、役員会は、定款に定める理事会や NEATR 規約に定める指令本部会議（緊急時は NEATR 戦略本部会議）等を柔軟に適用するものとして設定している会議体です。

第 2 期は、あいおいニッセイ同和損害保険(株)と団体活動保険契約を締結するとともに、公益財団法人原子力安全技術センターと原子力防災業務に係る協定を締結し、この協定を実施するためワネッツ役員を含め新たにワネッツシニアアドバイザー（WSA）委任契約を締結しました。（後述の（8）を参照ください）

	年月日	件名
定款	2017.4.6	特定非営利活動法人ワネッツ 定款 NPO 法人ワネッツの目的、事業、会員資格、法人の運営などを定めた根本規定。
規定	2017.4.12	特定非営利活動法人ワネッツ 役員会規定 定款に定める理事会、NEATR 隊員規約に定める本部会議などを一括して行える会議体を設置する規定
規定	2017.4.12	特定非営利活動法人ワネッツ プライバシーポリシー 法人会員、NEATR 隊員の個人情報保護方針等を定めたもの
規定	2017.4.12 (改 18.2.2)	特定非営利活動法人ワネッツ 旅費規定 会員、NEATR 隊員の活動における交通費、実費相当日当の算定基準等を定めたもの
規定	2017.4.12	特定非営利活動法人ワネッツ 会計規則 NPO 法人会計規則に基づき、NPO 法人ワネッツの会計処理の方法、勘定科目等を定めたもの
規定	2017.4.12	特定非営利活動法人ワネッツ 隊員褒賞規定 NEATR 隊員の NPO 法人ワネッツの活動への貢献に対する褒賞基準を定めたもの
規定	2017.4.12 (改 18.2.2)	地域住民のための原子力緊急時援助隊 隊員規約 NEATR の隊員資格、隊員権利、隊の運営等を定めたもの。
契約	2017.4.12	事務処理委任に関する契約書 (株)EPR クリエイトと、NEATR 隊員への諸連絡、NPO 法人ワネッツの会計整理等を単価契約方式で行う契約書
契約	2018.8.25 (新規)	NPO 総合活動保険契約 あいおいニッセイ同和損害保険(株)と、団体の活動に係る損害保険の契約
契約	2018.6.20 (新規)	ワネッツシニアアドバイザー契約 NPO 法人ワネッツの役員とのワネッツシニアアドバイザー契約の締結
協定	2018.4.16 (新規)	原子力防災事業の実施にかかる協定 公益財団法人原子力安全技術センターが行う公益事業である原子力防災事業にワネッツが協力する旨を記載した協定書

## (2) ワネッツの正会員および賛助会員獲得

初年度会費納入等に合わせ、会員および賛助会員の拡大に努めました。なお、最近異動等で所在地が遠方になるとか任期のある地域役員に就任したとかによる脱会のケースが増えてきている状況です。この状況に鑑み、定款上に会員資格は継続するものの、会費は免除するという制度を導入しようとしています。

区分	第1期(2017年)		第2期(2018年)	
	個人	団体	個人	団体
正・賛会員数	57	9	67	9
期始めより増	18	9	11	0
期始めより減	3	0	1	0

## (3) NEATRの隊員獲得

前項の初年度会員獲得にあわせ、新規隊員募集も行いました。その結果、脱隊者も多く、隊員数増加を期待していましたが減少となりました。なお、最近ワネッツ会員も含め目的意識が希薄化する傾向がみられるため、ワネッツの定款の目的を今日的視点で見直すことをワネッツ通常総会の議案とし、また今後 NEATR 規約の目的のグレードアップについても検討していきます。

	第1期(2017年)	第2期(2018年)
隊員数	139名	133名
期始めより増	15名	1名
期始めより減	14名	7名
平均年齢(概算)	約70才	

## (4) 継続的な寄付収入

会員獲得および隊員獲得にあわせ、寄付のお願いも実施しました。この寄付については1口を3,000円として、1口以上100人以上というアウトカム指標を設定しました。この指標人数について、当初は税額控除が受けられるワネッツ役員も対象としていましたが、最近申請上の人数は役員を除いたものであることがわかり、係数方法をこれに合わせました。

その結果、3,000円以上寄付が丁度100人となり、初回年度と合わせ、2年連続でアウトカム指標は達成しました。なお寄付者名簿は、事務局に備え付けました。

## (5) 補助金等の申請

補助金については、一昨年は4件申請で2件獲得できましたが、今年度は、日本財団の「ソーシャルイノベーションアワード2018」に「空気の支配からの脱却：被ばくから放射線リスクへ」というテーマ1本に絞って応募しました。しかし、残念ながら同財団から助成金を獲得することはできませんでした。



なお、昨年に引き続き、福井県女性活躍推進課の「人口減少に歯止めを、頑張る県民共同グループ応援事業」も検討しましたが、成案を得ることができませんでした。

(6) コマンドシステムの導入、定着

NEATR コマンドシステムは、緊急時において住民保護に貢献しようとする貴重な意思を集団としての目的に一致させるためのシステムとなっています。これは2017年2月に(株)EPR クリエイトが開発したプロトタイプで、3-4(4)項の契約により、ワネッツに供されているものとなっています。

このシステムの定着を図るため、昨年度に引き続き、2018年8月にコールインドリルを実施しました。また、2-1項で述べた説明会やその他、適用可能な事業で活用するとともに、コマンドシステムの応答チェックボックスを用いて NEATR 隊員のフィールド活動のパフォーマンス測定にも用いました。

(7) ホームページの運営、ワネッツ会報および NEATR 機関紙の発行

コマンドシステムのコマンドウェブとして使用することおよび、関係者に情報を伝達することのため、NEATR 専用ホームページを開設し、ワネッツ発足時から活用しました。

また、ワネッツの会報は第2期において3回（ワネッツ発足以降、都合7回）発行し、NEATR の機関紙である“ウィズハート”も第2期において3回（NEATR 創設以降、都合10回）発行しました。

これらの状況を下表に示します。なお、機関紙コラム“NEATR の KSA”では、役員間打合せ結果により、第7号から第10号までの連載で「地域防災計画について」を掲載しました。また、第10号から「緊急時コミュニケーション」の連載コラムを開始しました。

(会報)・・・定期記事(本会計状況、事業会計状況、活動日誌、諸連絡)除く

号	発行日	内容	備考
5	2018.8.7	第2回NPO 法人ワネッツ定期総会の結果について NPO 法人ワネッツ2018年度からの体制について 福井県知事宛て報告および登記について etc.	
6	2018.12.27	団体活動保険の契約締結について 緊急時コミュニケーションについて 個別事業の評価方法について etc.	
7	2019.4.27	2018年度本会計決算について 2018年度事業会計決算について 役員会の開催状況について etc.	

(機関紙)・定例記事(今後の活動予定、NEATRのK・S・A等)を除く

号	発行日	内容	備考
8	17.8.22	特集 コールインドリルを行います 特集 コマンドシステム演習を行います 報告 防災基礎研修での放射線測定器について etc.	
9	2018.12.27	特集 NEATR コマンドシステム研修を行いました 報告 コールインドリル、若狭湾工研講座派遣事業 etc. 特別図解 緊急時コミュニケーション etc.	
10	2019.4.27	巻頭 河瀬一治氏インタビュー 特集 パスウェイワークショップ 報告 KSA 向上特別番組放映 etc.	

#### (8) ワネッツシニアアドバイザー (WSA) について

前3-4(1)項で述べたとおり、協定に基づく原子力防災業務を実施するため、第回役員会の議決に基づき、ワネッツと個人の間で委任契約を締結したワネッツシニアアドバイザー (WSA) 制度を設立しました。なお、ワネッツ役員がWSAのメンバーとなる場合の契約承認はワネッツ定款第37条第4項に基づき、本人以外の役員による議決により行いました。

#### (9) WSA ニュースレポートの発刊について

WSA メンバーの知識、技能およびコミュニケーション力の向上のため、月2回程度メールでのニュースレポートを発刊しています。

2018年度に発行したWSAニュースレターは以下のとおりとなっています。

No.17 03/01 放射線の空気の支配 すべては3月1日から始まった

No.16 02/16 なんでもこうなる！ 事実よりも策略

No.15 02/07 放射線防護と「付度」

No.14 01/22 少女の甲状腺 100ミリシーベルト

No.13 01/20 もし、毎月勤労統計が正確であったなら

No.12 01/09 個人線量当量と周辺線量当量

No.11 12/22 危機一髪 ロックオン

No.10 12/07 オムニバス リスクについて

No.9 12/01 本日のアラスカ地震と熊本地震の比較について

No.8 11/10 放射線リスクに関するNHKの報道について

No.7 10/12 米国の過剰被ばく例について

No.6 09/29 昨日のインドネシア地震について

No.5 09/06 北海道の地震について

No.4 08/27 原子力総合防災訓練のネガティブ記事とNEATR記事について

- No.3 08/12 気温と死亡者数について
- No.2 07/29 極端な暑さと干ばつの準備について
- No.1 07/25 ラオスタムの決壊について

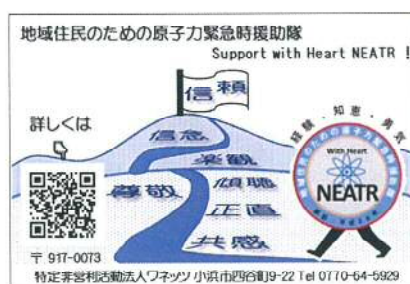
なお、昨年度に引き続き、ウィズハート第 9 号発刊にあわせ機関紙読者アンケートを行いました。その結果、よいと判断された記事は、巻頭の「コマンドシステム演習」が 24 票で以下は「図解 緊急時コミュニケーション」が 11 票、「緊急時コミュニケーション研修報告」が 10 票となっており、比較的、個人の意見等を掲載することが、高評価につながるものとなっています。

以上

(強制余白)

## 地域住民のための原子力緊急時援助隊 (NEATR)

### 2018年度 活動報告書



2019年6月24日  
特定非営利活動法人 ワネッツ

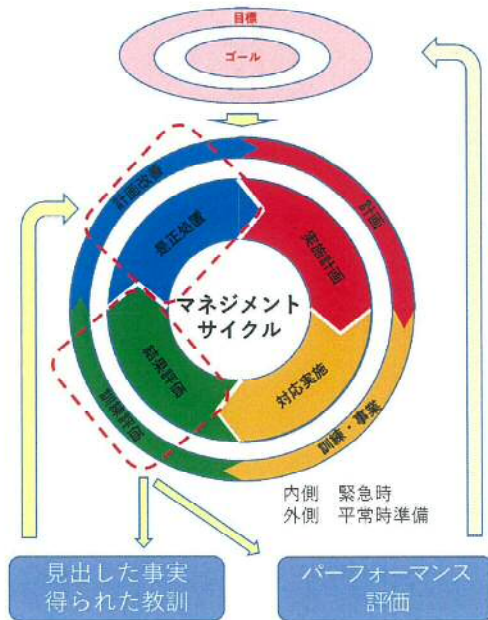
## NPO法人ワネッツとNEATRの関係

1

	地域住民のための原子力緊急時援助隊 (NEATR)	特定非営利活動法人ワネッツ
性格	任意団体 (2016(H28)年12月17日発足) 平常時、緊急時とも実際の活動を行う	特定非営利活動法人 (2017(H29)年4月6日設立) NEATRの運営を行う
目的	緊急時の <b>混乱の発生を回避する</b> 平常時は地域レジリエンス向上活動	地域の防災・減災力の向上に寄与 これを実現するために <b>事業を実施する</b>
参加資格	若狭地方原子力職場の退職者で若狭方面または、京阪神方面に居住、会費等なし	制限なし 加入金、年会費が必要
義務	<b>隊員の義務は一切なし</b> 、加入・脱退自由	会員は定款に基づき権利、義務あり
現勢	隊員 68名、支援隊員65名 計133名 (平均年齢 約70才)	正会員 37名、賛助会員 39名・社
会計	NPO法人ワネッツが実施 隊員の平常時活動は旅費規定適用、緊急時はボランティア	法人会計規則準拠(本会計と事業会計) 収入は、会費、寄付金、事業収入等 支出は、人件費、事業支出、管理費等
会議体	NEATR指令本部会議 (緊急時はNEATR戦略会議を兼ねる)	役員会(規定による)、理事会(定款による)
構成	隊長1名(肥田善雄)、副隊長3名、班長7名 (NEATRコマンドシステム適用)	理事長1名(肥田善雄)、副理事長1名、理事6名、理事・事務局長1名、監事2名 (会計規定、旅費規定等整備)

## 活動の特徴1 マネジメントシステム

2



- 平常時の事業および緊急時の対応とも、マネジメントシステムを適用し、**PDCAサイクル**をまわす。(左図参照)  
このため、作成した計画には、脆弱性があるものとして、それを実施段階で**“事実”**として見出し、その事実から**“教訓”**を得る方式をとる。
- 平常時の事業は、**緊急時の準備**として位置付ける。(講習会講師派遣などは“顔の見える関係の構築”)
- 平常時事業であっても、原則として、NEATRコマンドシステムを使い要員参集、ミッション実施および報告を行う。
- 平常時および緊急時とも、目標は高めに置き、その高い目標にどれだけ近づいたかを**パフォーマンス評価**する。

## 活動の特徴2 コマンドシステム

3

### システムの構成

#### □ コールシステム

隊員のスマホ等情報端末に出動要請を出すとともに、担当するエリアとそこでのミッションを連絡するシステム。

#### □ コマンドウェブ

隊員にミッションの中身を示し、隊員が進捗状況を逐次入力し、完了を報告するウェブコンテンツ。

##### ・ミッションシート

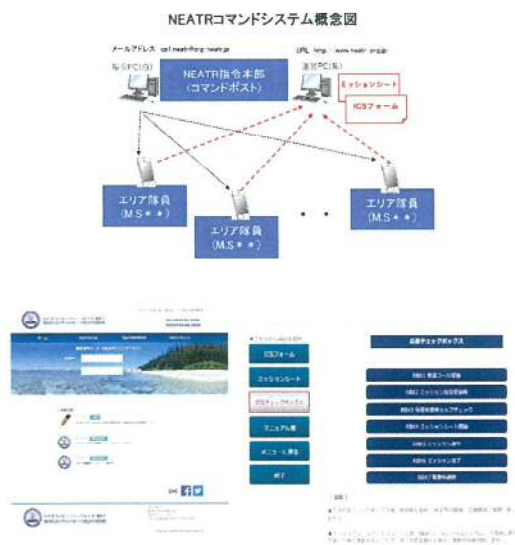
ウェブコンテンツに含まれるフォーマット。隊員のミッション毎の対応手順と**ICSフォーム**からなる。

##### ・応答チェックボックス

ウェブコンテンツに含まれる進捗状況入力用の枠。

#### □ ハード構成

パソコンまたはサーバー：2台、インターネット回線：2回線、メール機能およびウェブ閲覧機能のある情報端末：必要数





## 活動の特徴3 緊急時コミュニケーション

4



公衆に原子力及び放射線に関する情報を伝え、思慮深く判断し、建設的な意見を述べる人を増やす活動（NEATRの定義）

### □ 平常時も緊急時も一緒＝ワンボイス

起きたとしてコミュニケーション  
緊急時に新しいことは言わない  
念のため・・・起きたら説明できない

### □ どこでも同じ用語＝ターミノロジー

ミリよりマイクロが大きい・・・え！  
グレイよりシールドで教えて・・・ええ！  
放射線は貫通するから危険・・・ええ～！

### □ ラポール（傾聴）＝思いやり・共感

人々は技術的な判断はしない  
信頼している人・組織の声を聴く  
信頼を得るためには、ラポール

## 2018年度 NEATRの活動実績

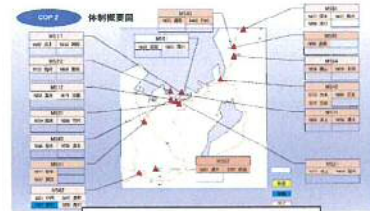
5

区分	活動項目	実施日	参加人数	新聞報道	
① NEATR R運営事業	コマンドシステム演習事業	H30.8~H30.11	40名	1社	6
	KSA向上特別番組放映事業	H31.2~H31.3	4名(51回) (数人)	—	7
② 隊員等 研修事業	緊急時コミュニケーション研修事業	H30.11~H31.3	23名 (13名)	—	8
	(該当なし)	—	—	—	—
③ ツール開 発等事業	世代間交流事業（ワークショップ）	H30.11~H31.3	11名(80回) (7名)	—	9
	敦賀市広域避難研修支援事業	H30.10~H30.11	3名 (約40名)	—	10
④ 知識普 及事業	若狭湾エネ研研修講師派遣事業	H30.6~H30.12	3名 (6名)	—	11
	WSA防災基礎研修支援事業	H30.4~H30.9	99名 (約150名)	—	12
⑤ 関連事 業	災害活動団体支援事業	H30.7~H30.9	8名	—	13
	会員特典テキスト配布事業	H30.4~H31.3	31名	—	14

## コマンドシステム演習事業

6

1. 日時 2018年8月25日(土)、8月26日(日)、8時~15時
2. 場所 福井県おおい町本郷 おおい町民センター  
福井県、兵庫県の原子力総合防災訓練会場
3. 目的  
原子力総合防災訓練の設定に合わせ、自主的に2018年度NEATRコマンドシステムのフィールド演習をフルスコープ(全エリア、全ステップ)で実施し、NEATRの初動対応能力の向上を図るとともに、同システムの継続的改善を行う。
4. 実施内容  
同日に実施された国・自治体原子力総合防災訓練に合わせ、NEATRコマンドシステムの全機能の実動演習を行った。
5. 評価(事実と教訓)
  - ・ 演習で得られた緊急時リスクコミュニケーション支援等について、具体的な実施内容をコマンドシステムに反映する
  - ・ ICSフォームの作成に時間を要したため、迅速作成ができるようにすることと、これを使った戦略本部会議の運営を明確にすべき
  - ・ コマンドシステムへの反映は、優先順位をつけながら順次行っていく



## K S A 向上特別番組放映事業

7



1. 日時 2019年3月28日(木)~30日(土) 20時30から30分間
2. 場所 おおい町大島袖ヶ浜、高浜町音海関西電力高浜発電所周辺およびワネッツ敦賀事務所(録画)
3. 目的  
NEATR指令本部とNEATR隊員のライブコミュニケーションにより、隊員の知識(Knowledge)、技能(Skill)および態度(Attitude)の向上を期するとともに、NEATRのステークホルダーに活動状況を提供する。
4. 実施内容  
1日目ライブ「NEATRの活動実績」、2日目ライブ「パスウェイ」、3日目録画「隊員へのメッセージ」
5. 評価(事実と教訓)
  - ・ 第1話は強風と寒さでまったく映像にならなかったため、屋外ライブでコンテンツ作成する場合は気象条件を十分考慮する。
  - ・ クイズ方式への参加がなかったため、ライブで視聴者参加を求める場合、視聴者を含めてリハーサルを実施する
  - ・ 自家製機材の組み合わせで低レベルのコンテンツ品質であり、これを高めるため、専用のレンタル機材等を用いる。



## 緊急時コミュニケーション研修事業

8

1. 日時 2018年11月28日(金)、29日 09:30~16:00

2. 場所 福井県敦賀市 プラザ万象

3. 目的

ワネッツ会員・NEATR[隊員の知識や技能の維持・向上のため、公益財団法人原子力安全技術センターの「平成30年度リスク・コミュニケーター」の育成研修]の場を活用し、緊急時コミュニケーション研修を行う。

4. 実施内容

研修の受講を通じ、パフォーマンス評価およびAARを実施した。室内活動のパフォーマンス評価は過去最高となった。

5. 評価(事実と教訓)

- ・ 出展不明や古い資料があったため、今後、作成する資料には、出典を記載するとともに、必要に応じコピーライトを表示する
- ・ リスクという用語自体の受け止めがまちまちであり、NEATRとしてのターミノロジー(用語の統一)を一層推進する必要がある。



育成研修の状況

アウトカム項目	指標	実績	結果
効果度	3.71以上	4.35(過去最大)	達成
理解度	1.34以上	1.53	達成

アンケート評価

リスクの解釈	選択率
ハザードに発生確率を掛けたもの	47.2%
潜在的であり、顕在化しないもの	29.4%
有害性	17.6%
危険性	5.9%
確率	5.9%

リスクの解釈(アンケート結果)

## 世代間交流(パスウェイワークショップ)事業

9



大飯発電所見学で記念撮影



意見交換会の状況



ワークショップの状況

1. 日時 平成2019年3月9日(土) 14:00~16:00

2. 場所 おおい町本郷 おおい町総合市民センター

3. 目的

福島住民避難を教訓とした原子力緊急時に係る地域レジリエンスの向上というNEATRの目標(ゴール)を目指し、平時においてステークホルダー(NEATRとともに、原子力緊急時の地域住民のための活動をしていただきたい、学生、生徒および周辺住民の皆様)と緊急時コミュニケーション(原子力緊急時に関するメッセージを伝え、思慮深く判断し建設的な意見を述べる人を増やす活動)を行う。

4. 実施内容

パスウェイモデルを用いたワークショップ

5. 評価(事実と教訓)

- ・ ラポールに関する認識が統一されておらず、かさらに議論し、次回のワークショップへ反映する。
- ・ 予定内容の未実施があり、事前に器材や模擬参加者を配置してフルストーリーでリハーサルする必要がある。
- ・ ワークショップへの高校生の参加要請は慎重な準備のもと行う必要がある。

## 敦賀市広域避難研修支援事業

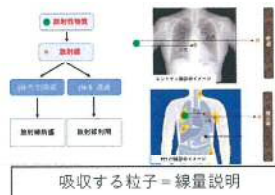
10



研修会の風景



プレゼンテーションの状況



吸収する粒子 = 線量説明

1. 日時 2018年10月20日(土) 08:15~08:45
2. 場所 福井県敦賀市 中郷地区公民館
3. 目的  
敦賀市から要請を受けた支援(講習会)を確実に実施するとともに、参加するNEATR隊員の知識・技能(顔の見える関係の構築含む)の向上をはかる。
4. 実施内容  
「放射線は粒子である」および「線量は吸収エネルギーである」のメッセージを伝えるテキストを作成し、実際にそのメッセージを伝えた。
5. 評価(事実と教訓)
  - ・ 放射線粒子のテキストは、「AGL-4」※1の原則を生かし、もっとシンプルにする必要がある。

※1 アベレージレベルマイナスフォーで、公衆とコミュニケーションを行うためにはレベルを4つ落とす、すなわち社会人対象であれば小学校程度のレベルで表現するという、コミュニケーションの技法のひとつ。

## 若狭湾エネ研研修講師派遣事業

11

1. 日時 2019年11月28日(土) 9:00~12:00
2. 場所 福井県敦賀市 若狭湾エネルギー研究センター
3. 目的  
原子力発電所従事者の放射線管理実践研修の一部で公衆放射線防護に関する講義を行う。
4. 実施内容  
放射線および放射線防護に関して、ノウハウを中心として講義するとともに、パスウェイモデルを用いてゲーム方式の実習を行う。
5. 評価(事実と教訓)
  - ・ 外部派遣講演会などを含め、自ら評価アンケートがとれない講義方式の活動のパフォーマンス指標を設定する必要がある。
  - ・ 実習の中で結果があらかじめ分かっているものについて、どんな選択肢を設け、どのようなゲームとするか、更に検討する必要がある。

状況	計画値はく状況	緊急時値はく状況	限存値はく状況
職業人	50mSv/y (20mSv/y)	500mSv(1回)	100mSv(1回)
公衆	1mSv/y (0.1mSv/y)	100mSv(1回)	20mSv(1回)
注	乳癌検出レベル	N/A	N/A

公衆の放射線防護の説明図



線源の説明図



屋内退避の有効性の説明図



## WSA 防災基礎研修支援事業

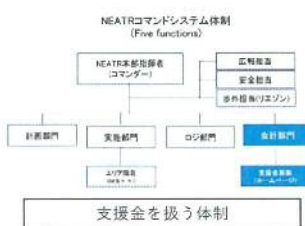
12

1. 日時 2018年4月～7月
2. 場所 福井県、大阪府、石川県、島根県、滋賀県の各所
3. 目的  
公益財団法人原子力安全技術センターとの協定に基づき、共同して原子力防災業務を行う。
4. 実施内容  
NPO法人ワネッツと個人との間でシニアアドバイザー委任契約を締結し、各自治体で実施される原子力防災基礎研修の支援の準備、実施および評価を行う。
5. 評価(事実と教訓)
  - ・ ノウハウについて細かい手順が準備されるが、それがなぜ必要かノウハウの部分でNEATRの資料として充実させる必要がある。
  - ・ よりよい「研修講師の態度」について、リハーサル等を通じて更に研鑽を積む必要がある。



## 災害活動団体支援事業

13



1. 日時 2018年7月(支援金払込は7月18日、なお西日本豪雨災害復旧は7月10日以降)
2. 場所 事務局で実施
3. 目的  
NEATRの緊急時活動条件整備として、団体活動保険とともに、支援金募集に関する知見を収集する。
4. 実施内容  
西日本豪雨(2018年7月)の報道で活動が確認された、NPO法人「T-MAT」および公益社団法人「セーブ・ザ・チルドレン」に、有志を募り支援金として寄付した。
5. 評価(事実と教訓)
  - ・ 支援金受領の可能性が見出されたので、NEATRコマンドシステムの会計班にミッションを付与する必要がある。
  - ・ 今後も災害報道をウォッチし、活動団体を特定して支援金活動を実施する。
  - ・ 支援金をワネッツ本会計とするかどうかを検討する。

## 会員特典テキスト配布事業

14

1. 日時 2018年9月(配布)

2. 場所 ワネッツ事務局

3. 目的

ワネッツ定款に定めた会員権利に付加し、創設時の「自己研鑽」を具体化するため、会員特典となる知識ベース事業を実施する。

4. 実施内容

緊急時コミュニケーションに関する海外テキストを翻訳し配布する。

5. 評価(事実と教訓)

- ・ 会員の1/3程度の申し込みがあるため、今後とも継続する。
- ・ 実現は難しいが、更なる「読まれる工夫」が必要である。

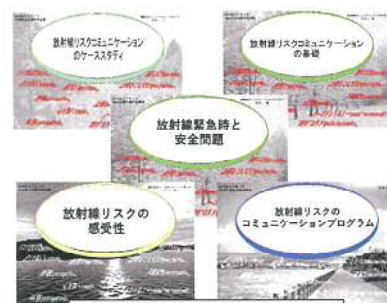
IAEA EPR Public  
Communications (2012)

Communications with the public  
In a nuclear and radiological  
emergency



IAEA

ベースとなる国際標準



テキストシリーズ